

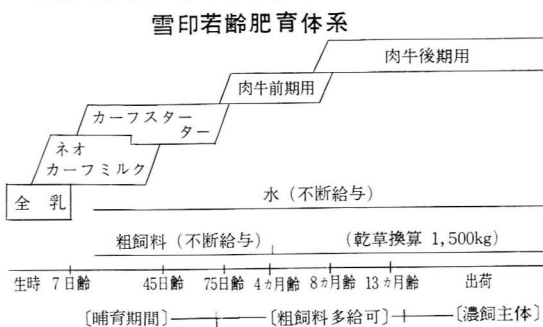
オス子牛の肥育は 雪印の乳用雄子牛肥育飼料で

～ 雪印の若齢肥育方式の要点 ～

札幌研究農場 松原 守

1. 雪印の若齢肥育方式

雪印の雄子牛の肥育体系は手持ちの粗飼料を活用して、しかも比較的早期に仕上げて、出荷する方法です。飼料の給与体系を図示すると、下記のようになります。



2. 雪印の乳用雄子牛肥育飼料とその使い方

1) 哺育飼料について、哺育期間は雄子牛についてもまったく雌牛同様の飼いで、初乳は必ず1週間与え、その後代用乳雪印ネオカーフミルクに切り替え、45日齢までの間1日当500gを2回に分けて、5～6倍の温湯に溶かして与えます。人工乳雪印カーフスターターは7日齢ごろから固形のまま、ネオカーフミルクと併行して75日齢まで与えます。カーフスターターを少しでも食べ始めますと、水をほしがりますので、水はカーフスターターを与えると同時にいつでも飲める状態にしておいて下さい。水を早く与えることがカーフスターターを早く喰いつかせるコツでもあります。乾牧草は生後15日齢ごろから与えます。

2) 肥育用飼料について

○雪印肉牛前期用

カーフスターターに引続いて、生後75日齢

ごろから8ヵ月齢まで給与する肥育用飼料でパレットです。

早期肥育をねらって肥育の素地としての体格づくりをする飼料で、良質蛋白質とカロリーを合理的に配合し、嗜好性、産肉性の優れた飼料です。

○雪印肉牛後期用

生後9ヵ月齢から出荷まで与える肥育仕上げ用飼料です。

雪印肉牛前期用に引続いて旺盛な肉量の増加と肉質の向上をはかる、低蛋白高カロリーの飼料です。

パレットで肥育の仕上げまで喰い込みがよい飼料です。

3. 粗飼料給与について

手持ちの粗飼料が豊富な場合、あるいは安価に入手できる場合は粗飼料の利用率を高めることも肥育費を少なくする上で必要なことです。粗飼料の利用率を高める時期は5ヵ月齢から12～13ヵ月齢までの間とし、少なくとも出荷前3～5ヵ月間は仕上げ肥育として、濃厚飼料主体で肥育して下さい。

放牧は出来るだけ5～13ヵ月齢内にとどめることです。

飼料の保証成分と可消化成分

飼料名	成分		可消化成分			
	粗蛋白質	粗脂肪	粗繊維	粗灰分	可消化粗蛋白質DCP	可消化養分総量TDN
ネオカーフミルク	26.0%以上	15.0%以上	2.0%以下	10.0%以下	25.0 %	95.0 %
カーフスターター	20.0	3.0	7.0	10.0	18.0	70.5
肉牛前期用	14.0	2.0	7.0	10.0	12.0	70.0
肉牛後期用	11.0	2.0	7.0	10.0	9.0	72.0